

湯～遊～バスのあゆみ

2014年 4月 1日 伊豆東海バスが1日13便にて運行開始

2014年10月12日 小型乗合車両を中型乗合車両に変更し座席数の増加

2015年 2月16日 10万人乗車達成

2016年 4月 2日 土休日の運行本数を18便に増便

2017年 5月 4日 50万人乗車達成

2018年 4月 1日 1日乗車券の適用範囲拡大

2019年 4月24日 5ヶ国語バス停設置

2019年 6月26日 100万人乗車達成

2020年 4月 1日 湯～遊～バス「彩」が運行開始

熱海市内名所めぐり

湯～遊～バス 彩
ATAMI YU~YU~ BUS IRODORI



新型専用車両紹介

湯～遊～バスの歌

後藤明夫 作詞
小宮山洋史 作曲

一、熱海まほろば

山のみどりに

湯けむり白く

虹のかけ橋

心に染まり

あゝ熱海なり

湯～遊～バスの旅

三、熱海輝く

常春の地に

梅にさくらに

人をなぐさめ

やすらぎの里

あゝ熱海なり

湯～遊～バスの旅

二、熱海湯の街

お宮の松に

沖の初島

紺碧の海は

永遠にうましける

あゝ熱海なり

湯～遊～バスの旅

四、熱海まほろば

錦が浦の

白き波立つ

あふるまぶしい

希望をのせて

あゝ熱海なり

湯～遊～バスの旅

熱海市内名所めぐり

湯～遊～バス 彩

ATAMI YU~YU~ BUS IRODORI

車両デザインコンセプト

熱海は、四季を通じ、様々な花々による癒し、豊かな海の幸、温泉の恵み、花火大会や伝統のお祭り、歴史的施設や情緒ある街並みに加え、近代的なホテル・美術館から流行りのスイーツまで、現在の最先端の魅力も兼ね備えた日本らしい風景が溢れています。この熱海のイメージをコンセプトに、レトロ調の外観と和モダンの彩り豊かな色調を取り入れたデザインで、熱海市民はもちろん観光客からも愛される車両となるよう計画いたしました。

ボディーカラーは日本的な品格を表す「臙脂（えんじ）色」を基本色とし、差し色として源氏物語でも詠まれる“粋で今はやりの”の意味を持つ「今様（いまよう）色」、装飾の色は日本伝統美の「金色」を使用して、「受け継がれてきた熱海ならではの彩り、温泉街の賑わいや華やかさと懐かしい情緒」を表しました。そしてそれらを近代的なテイストで纏めることにより、「新たな魅力が生まれ続ける街“熱海”」を表現したデザインとしました。

また、内装についても「金色」をメインに、起雲閣をはじめとする和洋を融合させた和モダンな建物の内装をイメージしたデザインとしました。これにより、外観も内装も楽しめる「見て楽しむ」・「乗って楽しむ」さらには「撮って楽しむ」ことができる、オリジナル特別専用車両といたしました。

車両内容

設計・デザイン・購入

製作・購入先／静岡日野自動車(株)

立案・デザイン・ディレクション／日野自動車(株) 架装・特装部 事業企画室デザイン／サポート バス部

設計・改造・製作／岩戸工業(株)

ベース車両

型式／日野Rainbow 2KG-KR290J4

装備／ドライバー異常時対応システム バックソナーシステム

ドライブレコーダー5カメラ ウルトラワイド液晶運賃表示器

モバイルアイ

フロント（前面）

①片キャブ

フロントは運転席を残し、乗降口側を屋外対応の片キャブ構造に改造。

②ボディフロント部分

フロント部分は丸形ライトを配置して、レトロ調に改造。雲形のギャラクシーフレークをアクセントとして配置。

リア（後面）

①リアデッキ改造

路面電車をイメージしたデッキをリアに製作。室内空間への影響を最小限とし、デザイン性も重視。

②天井リフトアップ改造

ボディ後部の天井をリフトアップし、ゆとりのある室内空間とした。

③ボディ側面窓

窓枠の改造により、側窓のデザイン性を高め、アーチ形のシールで装飾。

内 装



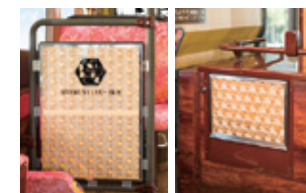
①天井装飾

金屏風をイメージした金色の天井には、熱海を代表する花々をあしらひ、華やかさを演出。



②リアの装飾

お宮の松を中心に、左右に寛一、お宮を配置した装飾をリア部に設置。リアガラスからの光で影絵風の装飾が浮き上がるように演出。



③組子細工パネル

伝統工芸の組子細工を客席仕切り板、タイヤハウス上のボックスに配置。



④シート生地

熱海市内を彩る四季折々の花々をあしらったオリジナルのシート生地。一部座席のシート生地には「あつお」をデザイン。